

■事業の目的・目標

- 「目的」電極活物質への無機材料の薄膜コート技術の実用化研究開発と量産用装置の開発
- 「目標」

1：連続型システムを構築し、活物質粉体コーティング装置を製造・販売する。

2：上記装置で生産された製品において、コート層の膜厚10nm以下、被覆率は最低85%以上を確保しつつ最終目標として100%の達成を目指す。
- 「目標達成状況」

1.処理能力 1 kg/hrと10kg/hr装置を製品化・販売中。50kg/hr装置は2026年度発売予定。

2.膜厚10nm以下、被覆率90%以上達成。

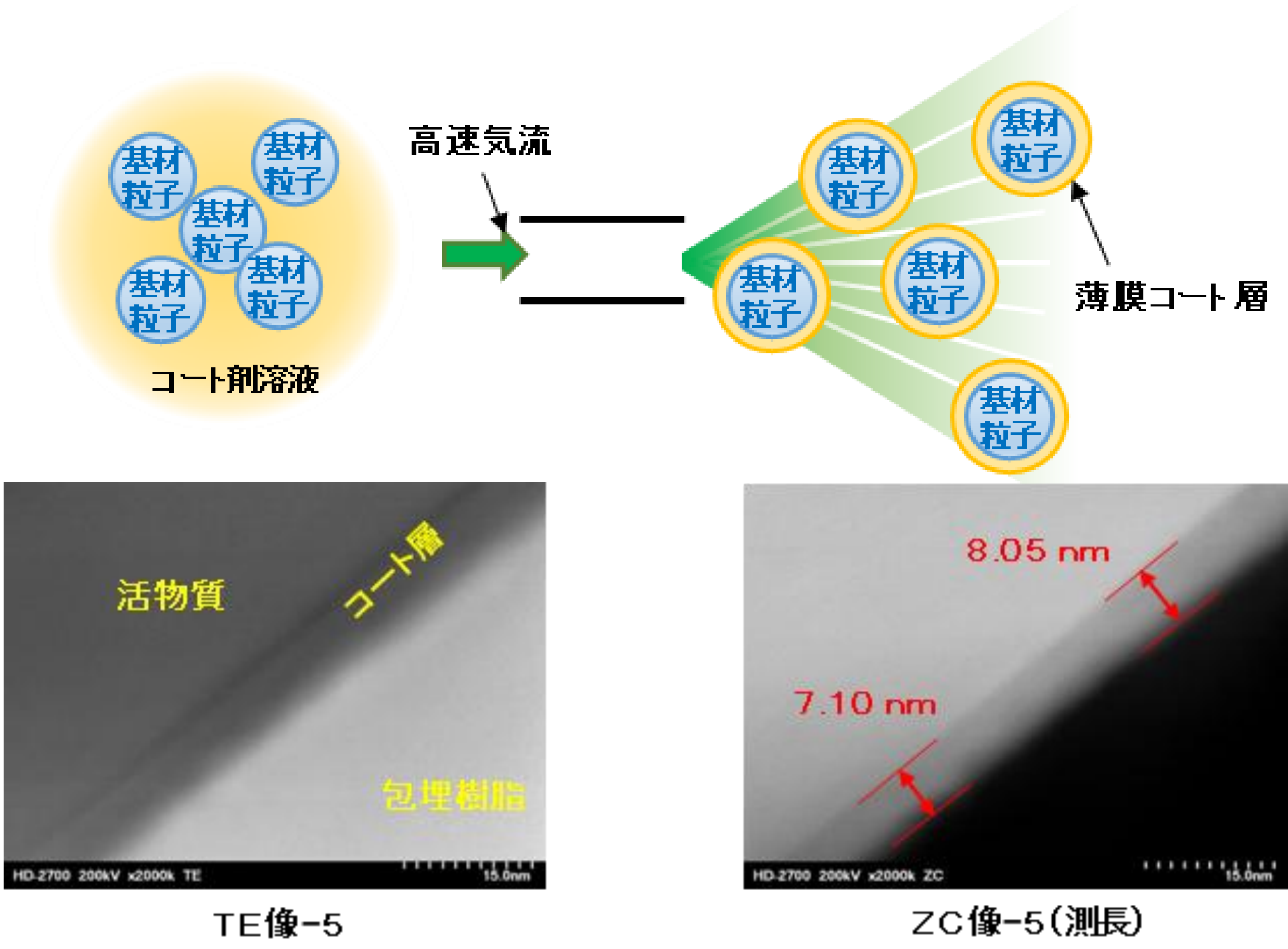


図1 活物質コート層のSTEM分析結果

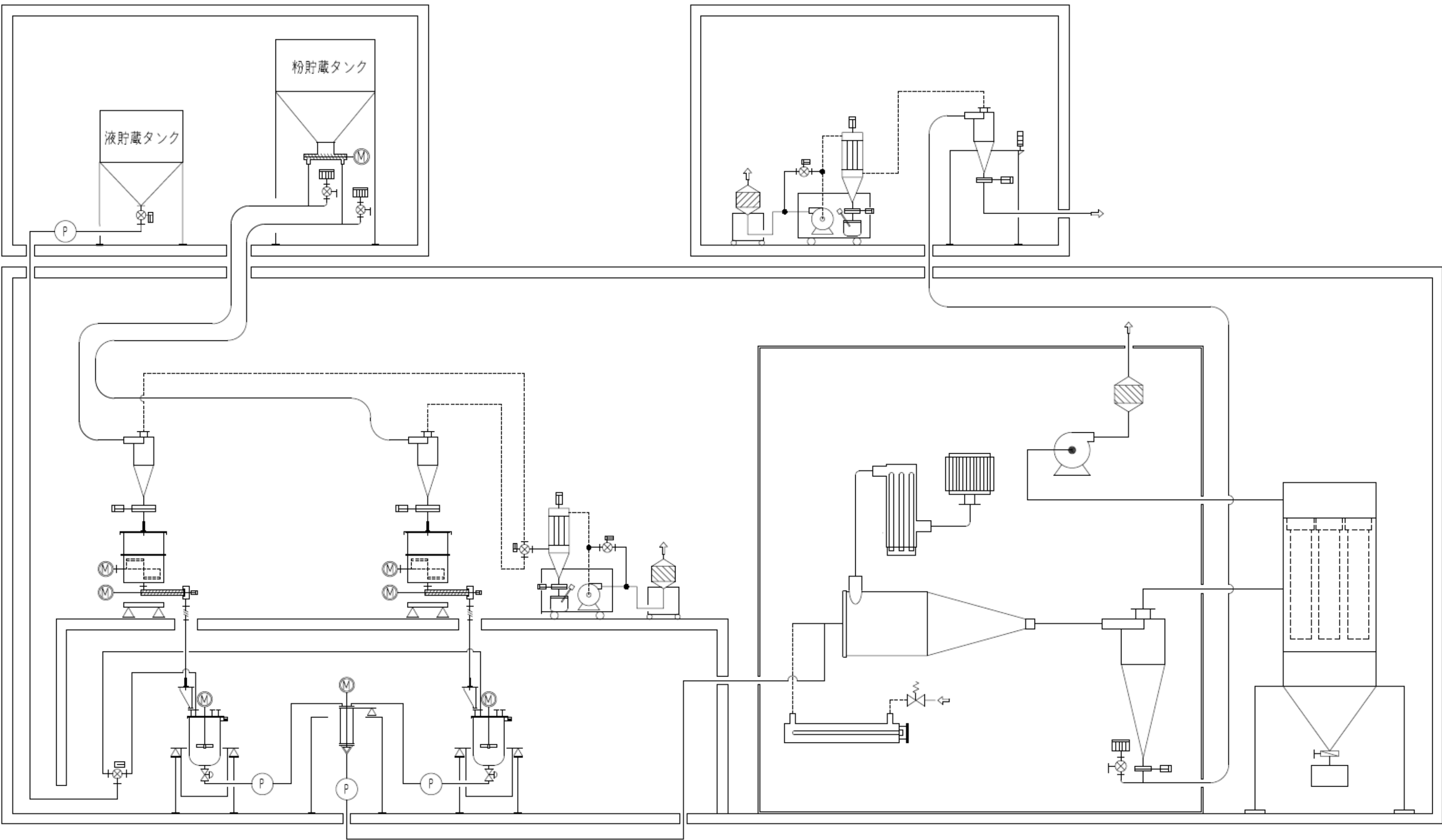


ハリコーター JD-1

型式	JD-1	JD-10
最大処理量	1 kg/h	10 kg/h
総電気容量(3相 AC200/220V50/60Hz)	17.0/20.0 kVA	24.5/28.0 kVA
本体寸法 W×D×H	1900×740×2000	3210×1790×2460

■2025年の主な成果

○連続量産コーティングシステムを構築



○低露点（-60℃）対応コーティング装置完成



■課題と今後の取組

- 「課題」全固体電池搭載EVの量産化対応のため、コーティング処理能力のさらなる向上が必要。
- 「今後の取組」

○処理能力100kg/hr以上コーティング装置の開発及びシステム構築。

○固体電解質のコーティングなどその他の用途開拓

■実用化・事業化の見通し

2030年頃の全固体電池実用化に向け、コーティング処理能力のさらなる量産対応を実現する。